

京都橘大学大学院看護学研究科

履修の手引き

2026 年度版

京都橘大学大学院看護学研究科

2026 年 4 月 1 日

目次

履修の手引き	3
I 学生関係業務の案内	4
1. 教務部各課業務内容と窓口時間	4
2. ポータルサイトについて	4
3. 学籍番号と学生証	5
4. 学籍と学費	5
5. 回生	5
6. 修了	5
7. 学籍に関する異動	6
II 履修方法等	7
1. 単位	7
2. 単位の修得について	7
3. 授業	9
4. 成績	10
III. 博士前期課程	11
1. 博士前期課程の3つのポリシー	11
1) ディプロマポリシー（学位授与方針）	12
2) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）	12
3) アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）	13
2. 博士前期課程の構成	13
3. 各専攻分野の特徴	14
4. 博士前期課程の担当教員	16
IV. 博士前期課程の入学から修了まで	16
1. 修了要件	16
2. カリキュラム表	18
3. 入学から修了までの基本スケジュール	24
4. 修士（看護学）学位論文の作成	24
5. 養護教諭専修免許状の取得	30
6. 認定看護管理者に関する科目	31
III. 博士後期課程	32
1. 博士後期課程の3つのポリシー	32
1) ディプロマポリシー（学位授与方針）	32
2) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）	33
3) アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）	34
2. 博士後期課程の構成	34
3. 博士後期課程の研究指導体制	34
IV. 博士後期課程の入学から修了まで	35
1. 修了要件	35
2. カリキュラム表	36
<博士後期課程> 2020年度以降入学者カリキュラム	36
<博士後期課程> 2019年度以前入学者カリキュラム	36
3. 入学から修了までの基本スケジュール	37
4. 博士（看護学）学位論文の作成	39

5. 博士論文の公表.....	44
V. 研究指導とサポート体制（前期・後期課程共通）	44
1. 研究指導とサポート体制	44
2. 社会人大学院生のための制度	45

履修の手引き

看護学研究科に在籍する大学院生が、履修・研究・修了までの流れを理解し、計画的に学修を進めるための案内です。

はじめに

本学大学院の学生は、入学から修了までの間に、学則および履修規定に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。

この「履修の手引き」は、それぞれの学生が、入学から修了までどのような学修計画を立てるかを決定するために必要な情報をすべて掲載しているものです。

この「履修の手引き」を熟読し、それぞれの学修が計画的に進められるようにしてください。

また、大学ホームページ【トップページ＞在学生の方へ】には学生生活および研究活動を進めていくにあたって不可欠の情報、知っておくとよい情報を掲載しています。有意義な学生生活を送るため、こちらもよく読んで活用してください。

<参考> 大学ホームページ【トップページ＞在学生の方へ】掲載内容

- ・ こんな時はどこへ（各種相談窓口、学籍異動、学内での忘れ物・盗難等）
- ・ 学びのサポート（授業関係、国際交流、施設紹介、学生支援等）
- ・ 就職サポート（就職進路サポート等）
- ・ 学生生活サポート（通学、健康管理・学生相談、学費、奨学金・研究支援等）

I 学生関係業務の案内

『履修の手引き』では、本学大学院生が研究活動をすすめていくにあたっての重要事項および『学生生活の手引き』に記載していない内容について紹介します。

1. 教務部各課業務内容と窓口時間

セクション名	メールアドレスおよび主な業務内容
教務課 アカデミックリンクス 1F	E-mail; aca@tachibana-u.ac.jp 履修登録・成績管理等に関する事務
社会・工学系事務課 アカデミックリンクス 1F	E-mail; aca-se@tachibana-u.ac.jp 現代ビジネス研究科に関する事務
人文系事務課 アカデミックリンクス 1F	E-mail; aca-hu@tachibana-u.ac.jp 文学研究科に関する事務、 教員免許・教員採用試験対策に関する事務
看護・医療系事務課 アカデミックリンクス 1F	E-mail; aca-nm@tachibana-u.ac.jp 看護学研究科、健康科学研究科に関する事務
国際系事務課 アカデミックリンクス 1F	E-mail; aca-gl@tachibana-u.ac.jp 言語教育・国際交流支援に関する事務
窓口時間【基本は 8:45～17:15（11:10～12:10 除く）】	
各課とも窓口業務は月曜日～金曜日で、11:10～12:10 は窓口業務を行いません。 補講・集中講義のある土曜日は、窓口業務（授業対応・証明書自動発行のみ）を行います。	

◎ 掲示の確認を習慣に

学生の皆さんに対する連絡は、すべてポータルサイト配信・掲示によって行います。ポータルサイト配信・掲示した事項については、学生に周知したものと取り扱います。

ポータルサイト配信や掲示を見落とすと、必要な手続きができない、修学に支障をきたすなど著しく不利になることがあります。特に受付期間を定めている場合には、その期間終了後は受け付けられないので注意が必要です。

ポータルサイト配信や掲示を見落としのために生じる不都合・不利益は本人の責任となります。

ポータルサイトは、インターネット接続環境のあるパソコンや携帯電話などで学外からでも情報が得られますので、毎日の習慣として掲示情報を確認するようにしてください。ポータルサイトの概要等は下記のとおりです。なお、電話による掲示内容の問い合わせには応じません。

2. ポータルサイトについて

ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）では、履修登録や授業の教室、時間割やシラバスの確認のほか、休講・補講掲示・大学からの重要な連絡事項の確認などができます。さらに、学修支援機能も備えており、①授業のレポ

ートや課題を提出する、②各種アンケートに回答する、③自身の学修状況を確認する、といったことも可能です。ポータルサイトは、本学ホームページの下記ページからアクセスしてください。

<ポータルサイトについて>

◆大学ホームページ

【トップページ> 在学生の方へ> 大学からのお知らせ（在学生専用）> ポータル（ユニバ）

3. 学籍番号と学生証

学籍

博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という）および後期3年の課程（以下「博士後期課程」という）に区分します。

本学の学生には、入学と同時に学籍番号が与えられます。この番号は、試験や諸届等、学内のすべての手続きに必要となります。学生証は、あなたが本学の学生であることを証明する大切なものですので、常に携帯してください。紛失や盗難にあった場合は、速やかに学生支援課スチューデントセンターへ届け出てください。

●学籍番号の仕組みは以下のとおりです。

		研究科・専攻				入学年度		一連番号		
看護学研究科	博士前期課程	h	7	0	1	1				
看護学研究科	博士後期課程	h	7	0	1	5				

（入学年度）西暦の下2ケタ

（一連番号）研究科ごとに001～

4. 学籍と学費

入学と同時に学籍が発生します。学籍は所定の納期までに学費を納入することによって年度ごとに継続していくことになります。学費を納入しない場合は、学則にもとづき除籍となり、学生の身分を失うことになります。

（1）学費の納入期日

学費は納入期日までに納入しなければなりません。

	納付書送付時期	納付期限※1	延納期限※2
前期分	（前期年度の）3月下旬	4月30日	8月5日まで
後期分	8月下旬	10月31日	2月5日まで

※1 納付期限日が金融機関休業日の場合、翌営業日が納付期限日となります。

※2 延納期限日が金融機関休業日の場合、翌営業日が延納許可期限日となります。

（2）学費の延納について

何らかの事情で、期日までに納入が困難な場合は、「学費延納願」を学生支援課スチューデントセンターへ提出して、事前に許可を受けなければなりません。許可なく期日を過ぎて未納の場合は、除籍になります。

5. 回生

回生は、入学と同時に1回生となり、単位の修得状況に関わりなく、1ヶ年単位で繰り上がっていきます。

博士前期課程の学生は4回生（長期履修生は5回生）を超えて、博士後期課程の学生は6回生（長期履修生は7回生）を超えて在学することはできません。

6. 修了

標準修業年限以上在学し、所定の要件にそって必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査および最終試験に合格した場合、修了となり、博士前期課程においては「修士（看護学）」、博士後期課程においては「博士（看護学）」の学位が与えられます。

また、標準修業年限以上在学した者が前期で修了要件を満たした場合には、前期末日である9月20日で修了となります。

（注1）博士前期課程の標準修業年限は「研究コース」「専門看護師コース」とも2年ですが、長期履修制度により3年とすることもできます。

（注2）博士後期課程の標準修業年限は3年ですが、長期履修制度により4年とすることもできます。

（注3）長期履修制度は出願時に選択しますが、所定の手続きにより1回に限り変更することができます。

7. 学籍に関する異動

（1）休学・復学

病気等やむを得ない事由で学修を継続できない場合は、許可を得てセメスター（学期）単位で休学することができます。休学願は所定の様式により看護・医療系事務課へ提出してください。病気による場合は、医師の診断書が必要です。休学した場合には、その期間が終了するまでに復学願、退学願または継続する休学願を提出して許可を得なければなりません。

なお、休学中は在学期間には算入されません。また、休学の期間は1年を超えることはできません。ただし、特別の事情がある場合に限り、更に1年延長することができます。休学中の学費は免除されますが、学期の途中で休学する場合は、その期の所定の学費は納入しなければなりません。

復学する場合は、復学願と必要書類を看護・医療系事務課へ提出してください。休学事由が病気による場合は、診断書の提出が必要です。

（2）除籍

定められた期日までに学費の納入を怠り督促を受けても納入しない者、また、休学者が期間を過ぎても復学・退学・休学願を提出せず許可を得なかった場合は除籍となり、学生の身分を失います。

（3）復籍

学費の滞納により除籍となった者が、指定された期日までに学費納付金を添えて願い出、許可されれば、復籍となり、学生の身分を再び有することとなります。この場合、除籍時の研究科コース、回生、修得単位などをそのまま継続することとなります。

（4）退学

病気等やむを得ない事由で退学する場合には、所定の手続きにしたがって退学願を提出して許可を得なければなりません。

（5）再入学

退学した者、または学費未納による除籍となった者が再入学を希望する場合は、審議の上、許可することがあります。詳しくは看護・医療系事務課に相談してください。

（6）修業年限変更

博士前期課程1回生および博士後期課程2回生の1月中旬から2月末の所定期間内に「標準修業年限変更願」を看護・医療系事務課に提出することで、出願時に選択した修業年限を下記のとおり変更することが可能です。所定期間および手続き方法については、12月に案内しますので、修業年限変更を希望する者は確認するようにしてください。修業年限を変更すると、変更後の授業料等納付金の額が変更になります。（※修業年限内の授業料等納付金の合計額は変わりません。）

Ⅱ 履修方法等

1. 単位

本学の教育課程では、各科目について基準で定められている単位を修得し、修了の要件や資格取得の要件を満たしていくという「単位制」をとっています。

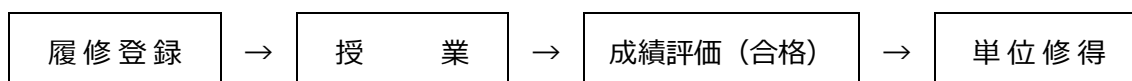
本学では、大学設置基準に基づき、45 時間の学修時間を 1 単位として計算しています。具体的には、授業 15 時間、自学自習時間（予習・復習時間）30 時間で当該科目 1 単位として構成されています。ただし、科目の性格によっては、授業と自学自習時間（予習・復習時間）の時間構成が異なる場合があります。

なお、1 回あたりの授業は 100 分を基本としています。また、45 分を 1 時間で計算しています。したがって、「前期セメスター・2 単位」という授業科目は、通常、毎週 1 回（100 分）の授業を前期セメスター中に 14 週行い、あわせて各自の予習・復習が行われることを意味しています。

2. 単位の修得について

（1）単位修得の流れ

単位を修得するには、まず科目の「履修登録」を行い、試験結果や平常の評価が合格点に達しなければなりません。



* 学則第 13 条 授業科目の履修は単位制とし、単位は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して認定する。成績評点は、100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。

（2）本学以外で修得した単位の認定について

博士前期課程、博士後期課程において、教育上有益と認められる場合に限り、大学院委員会の議を経て、在学中に他大学の大学院等の授業科目を履修することができます。この場合、修得した単位は、大学院委員会の議に基づき、本学において修得した単位としてみなすことができます。ただし、単位の認定は、博士前期課程 10 単位、博士後期課程 4 単位を超えない範囲とします。

（3）履修登録に関する基本的原則と諸注意

1) 履修登録とは

履修登録とは、各年度当初の定められた期間に、その年度に受講しようとする科目を登録するものです。履修登録は、すべて登録者本人の責任で行います。登録事項に間違いがあった場合、本人がその責を負います。また、登録していない科目の受講はできません。

2) 参考とする資料

受講科目の決定にあたっては、この「履修の手引き」を熟読し、履修計画を立てた上で、各年度に改訂される「web シラバス」、「時間割」などを参考にしながら、慎重に行ってください。同時に、指導教員の指導も参考にしてください。

3) 「正誤表」の確認

本誌および「web シラバス」、「時間割」等に変更事項が発生した場合は、ポータルサイトに「正誤表」を配信します。履修登録前に必ず確認をするようにしてください。この場合、ポータルサイトの内容が最も正しいものとなります。特に赤で訂正された内容に注意してください。

4) カリキュラム表

本誌および「web シラバス」に記載されているカリキュラム表は、該当する入学年度生対象のものを参照してください。

5) 回生配当

各科目には履修できる回生が決められています（配当回生）。各自の回生より上回生に配当された科目を履修することはできません。しかし、上回生は下の回生の科目を履修することができます。長期的な計画を立てて登録してください。

6) 重複履修

同一学期の同一講時に、2つ以上の科目を重複して登録することはできません。また、すでに単位を修得済みの科目を、もう一度登録することはできません。

7) 履修登録の時期

後期科目についても、前期に一括して登録しなければなりません。

8) 集中講義の登録

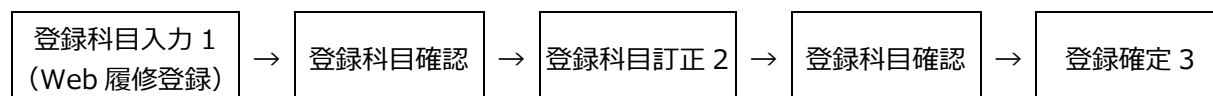
集中講義は「時間割」の最終ページに載せています。登録漏れのないように注意してください。集中講義で同一日の同一講時に、2つ以上の科目を履修することはできません。

9) 「特別研究」「課題研究」クラス

「特別研究」「課題研究」については、クラスを指定（登録済）しています。登録画面、学生時間割で確認してください。

(4) 履修登録のながれ

履修登録は以下の手続きで行うこととなりますが、その全ての手続きは学生自身の責任において行われるものです。「指定された期間に登録・訂正・確認ができなかった」などの責任も全て学生自身の責任となりますので、この履修の手引きや学年暦、掲示や配布物による登録関係の連絡事項に十分注意して間違いのないように行ってください。



1. 在学生は3月、新入生は4月に実施。
2. 登録科目訂正期間は後期にも設定されています。
3. その年度の登録確定は5月です（ただし、後期の登録訂正分を除く）。

1) 履修登録の方法（Web 履修登録）

本学のポータルサイトから登録を行います（本学発行のIDとパスワードが必要になります）。

登録の前に、履修登録申請をする科目を「シラバス」などで確認します。シラバスとは、授業科目要項のことで、授業の計画や内容の概略を記したものです。シラバスは、ポータルサイトで確認することができます。

Web上での具体的な登録方法は、本学HPからリンクしているポータルサイトを参照してください。

2) 2026年度履修登録の日時

在学生:3月2日(月) 9:00 ~ 3月5日(木) 13:00

新入生:4月3日(金) 9:00 ~ 4月8日(水) 13:00

3) 学生時間割表の確認

履修登録申請した科目が正確に登録されているかを確認するため、定められた期間中に、「学生時間割表」で登録科目に誤りがないか確認してください。

訂正する場合には、登録訂正期間中に行ってください。

4) 履修登録訂正

履修登録期間中に登録した科目を定められた範囲内で、一定の期間中に限って、訂正（追加・削除）することができます。

① 2026年度登録訂正期間

前期:4月13日(月) 9:00 ~ 4月17日(金) 13:00

後期:9月15日(火) 9:00 ~ 9月28日(月) 13:00

② 履修登録訂正方法

Web 履修登録画面上で、登録訂正内容を入力してください。

③ 2026 年度「学生時間割表」確認期間

前期:4月24日(金)～4月30日(木) 後期:10月5日(月)～10月8日(木)

5) 履修登録問い合わせ窓口

① インターネットやパソコンの操作、パスワードの忘失に関する質問
情報メディアセンター (E-mail; media@tachibana-u.ac.jp)

② 履修登録の内容に関する質問

・Teams のチャット画面からチャットボットアプリ「アカデミックセンター」に質問する

※Teams のチャット画面で「アカデミックセンター」と検索してください。

・よくある質問については、チャットボットにより即時に自動回答します。

・担当部署による有人回答は、原則 2 営業日以内を目処として対応します。

3. 授業

セメスター (学期)

1 年を 2 セメスターに分け、4 月 1 日から 9 月 20 日までを前期セメスター (春学期)、9 月 21 日から 3 月 31 日までを後期セメスター (秋学期) としています。授業は各 14 週、年間 35 週 (ガイダンス、集中講義等を含む) を原則としています。

授業科目はこれによって、原則的に各セメスターで完結します。開講形態としては、週 2 回の授業を行うものと、週 1 回行うものとに大別されます。

ただし一部科目は、通年制をとるものがあります。

授業時間

授業は原則として月曜日から金曜日に実施します。ただし、一部土曜日に実施する科目があります。土曜日は事務室の一般事務は行っていませんが、図書館等一部の業務は行っています。

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時
9:00～10:40	10:55～12:35	13:20～15:00	15:15～16:55	17:10～18:50	19:00～20:40

※看護学研究科、健康科学研究科では柔軟な時間割運用を行っており、5・6 講時の授業を下記の時間帯に実施することがありますので、個別日程表をご確認ください。

5 講時 (18:00～19:40) / 6 講時 (19:50～21:30)

休講

大学または授業担当教員のやむを得ない事由により、授業を休講することがあります。休講連絡は掲示板・本学ポータルサイトで行います。

休講の掲示がなく、授業開始後 30 分以上経過しても授業担当教員が入室しない場合は、看護・医療系事務課に連絡して指示を受けてください。休講についての電話照会には応じません。

なお、臨時休講措置は大学ホームページ【トップページ>在学生の方へ「学びのサポート」>台風等による臨時休校措置について】を参照してください。

集中講義と補講、振替授業

集中講義	特別に一定の連続した期間や、土曜日ごと等に集中して授業を行う科目があります。
補 講	休講となった授業の補填等、授業担当教員の判断で行います。
振替授業	授業担当教員の判断で通常の授業のかわりに、他の催し等への参加をもって授業への出席とみなすものです。

欠席

授業を欠席する場合、必要であれば自分の意志でその理由等について担当教員に報告し、指導を受けてください。

4. 成績

(1) 成績評価

成績は、点数で表示します。成績の評点は、100点満点で60点以上が合格です。59点以下の科目は不合格となり、単位の認定はできません。

グレード	評点	合否
S	90点～100点	合格
A	80点～89点	
B	70点～79点	
C	60点～69点	
D	00点～59点	不合格

成績証明書には、「S」「A」「B」等の合格科目の評価記号だけが記され、不合格科目は、科目名、評価記号とも記載されません。

入学前に他大学等で修得した単位の認定や在学中に他大学等で修得した単位は、認定の種類に応じて「N」「H」「T」等で表示します。その際、点数が表示される場合は、G.P.A.の計算対象となります。

(2) 2026年度成績通知

成績は、前期授業期間終了後と後期授業期間終了後に通知します。証明書自動発行機にて「成績通知書」を各自出力し確認してください。Web上で確認することも可能です。

	修了判定通知日	成績通知日
前期	2026年 9月 2日 (水)	2026年 9月 3日 (木)
後期	2027年 2月25日 (木)	2027年 3月 1日 (水)

(3) 「G.P.A.」 Grade Point Average

成績通知書には、 Semesterごとに修得した単位数と、修得単位数の合計を分野ごとに表示しています。また、グレードをポイントに換算した「G.P.A.」も表示しています。

「G.P.A.」は、Grade Point Average の略で、「学業成績の水準」のことです。修得単位数の水準を知るうえで参考になるものです。

- 「G.P.A.」算出の計算式は、次のとおりです。

$$\frac{(S \text{の単位数} \times 4) + (A \text{の単位数} \times 3) + (B \text{の単位数} \times 2) + (C \text{の単位数} \times 1) + (D \text{の単位数} \times 0)}{S \text{から} D \text{までの単位数の合計}}$$

修得単位数に成績のグレードに与えられたポイントをかけた合計を全科目の単位数合計で割ったものが「G.P.A.」です。全科目が「S」の場合、「G.P.A.」は「4.0」になります。

(4) 成績疑義の照会

通知された成績について「成績疑義」という照会制度があります。これは各自の不合格科目の結果について疑義を提示し、再確認を求める制度です。しかしこれは、あくまで当該科目が「不合格」の場合、つまり成績評価が「59点以下」の場合に限って行うことができ、与えられた点数についての不服申し立て等については受け付けません。

なお、成績疑義の照会期間はその都度定められ、公示されますので、期間内に必要な照会手続きを行ってください。

Ⅲ. 看護学研究科 博士前期課程

1. 博士前期課程の3つのポリシー

人材育成目標

人間の存在や生命の尊厳への深い理解を基盤にし、広い視野に立ち精深な学識を修め、専門性の高い看護実践能力や教育研究能力を備えた、看護のスペシャリスト、管理者、教育者を育成します。

◆専門看護師（CNS）※養成に対応したカリキュラム編成

医療技術の高度化や社会のニーズの多様化・複雑化等に伴って、看護のあらゆる面においても複雑化・高度化・専門化が進むなかで、看護の特定分野における卓越した看護実践能力と総合的な調整能力を有する看護職者である専門看護師（Certified Nurse Specialist:CNS）の必要性は、今後ますます増大することが予想されます。こうした状況を受け、本研究科では、専門看護師教育課程を設置しています（老年看護専攻、母性看護専攻、小児看護専攻、精神看護専攻、クリティカルケア看護専攻）。

※ 専門看護師（CNS）：日本看護系大学協議会の認定を受けた専門の教育課程の修了と必要な実務研修年数を踏まえて、日本看護協会の認定審査に合格した者を認定する資格です。現在、がん看護／精神看護／地域看護／老人看護／小児看護／母性看護／慢性疾患看護／急性・重症患者看護／感染症看護／家族支援／在宅看護／遺伝看護／災害看護／放射線看護の14分野で認定されています。

◆看護管理者の養成

看護が提供される場の多様化に伴い、従来の看護管理のあり方では対応が困難な状況も少なくありません。また、保健医療福祉を担う専門職の多様化に対し、看護の現場においては多職種の連携が必然的に求められるようになっていきます。こうした状況を受け、看護管理の問題を深く追究することが重要になっています。本研究科では、地域や保健医療福祉施設等で総合的な調整能力を持つ有能な看護管理者を養成します。所定の科目を履修することにより、認定看護管理者サードレベル申請資格が得られます。

◆看護教育者・指導的看護職者の育成

看護職者の養成が専門学校・短期大学から4年制大学へ大きく移行しつつあり、また保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正により、看護教員の需要が著しく増大しています。さらに、看護職者における生涯教育・卒後教育やキャリア開発の重要性・必要性も強く指摘されているところです。こうした中で、大学院において施設内教育・現任教育・研修等を担当し得る、看護に関する高度で多元的な教育・研究・実務の知識とスキルを持った人材の養成が重要になっています。このような状況を受け、本研究科では、看護職者の養成および生涯教育や卒後教育を担うことのできる看護教育者・指導的看護職者を育成します。

◆看護学の国際的研究の推進と国際舞台で活躍できる人材の養成

国際化の進展に伴い、国際的な研究者の交流や共同研究などが盛んに行われ、また看護学における国際貢献も強く要請されています。本学では、多くの教員が海外での調査や国際交流の経験を有しています。こうした実績を踏まえ、

本研究科では、国際的な保健・看護活動への広く深い理解を持った人材や、海外の病院や被災地などでも活躍できる人材の育成を行います。

1) ディプロマポリシー（学位授与方針）

看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）は、教学理念および教育研究上の目的に則り、人間の存在や生命の尊厳への深い理解を基盤にし、広い視野に立ち精深な学識を修め、専門性の高い看護実践能力や教育研究能力を備えた、看護のスペシャリスト、管理者、教育者を育成することをめざしている。そのために看護学専攻（博士前期課程）では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士（看護学）の学位を授与します。

- ① 専攻分野における卓越した看護実践能力を修得している。
- ② 総合的な調整能力をもち多職種間のケアの改善を主導する能力を修得している。
- ③ 看護実践やケアの質の改善にエビデンスを活用する能力を修得している。
- ④ 高い倫理観をもち複雑な倫理的課題に対応できる能力を修得している。
- ⑤ 高度で多元的な教育・研究・実践活動を通し、社会に貢献できる能力を修得している。
- ⑥ 広く深いグローバルな視野をもち国際舞台で活躍できる能力を修得している。
- ⑦ 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学の発展に寄与できる能力を修得している。

2) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）では、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

- ① <研究コース>と<専門看護師コース>の2つのコースを設定し、<研究コース>は教育・研究・実践に携わる研究者や病院等で看護管理や指導的役割を担う人材を育成し、<専門看護師コース>は高度看護実践能力をもち専門看護師をめざす人材を育成します。
- ② 専攻分野は、「実践看護基礎学」「実践看護応用学」「次世代育成看護学」「広域看護学」からなる4分野とし、教育課程は、4分野の「専門教育科目」と「共通基礎科目」の科目群により編成します。
 - (a) 「実践看護基礎学」は、基礎看護学、看護教育学から構成し、実践看護学の目的・対象・方法を明らかにし、人々の健康に関与する実践看護学の基礎となる知識体系と実践体系を教授する科目を配置します。
 - (b) 「実践看護応用学」は、現代社会において特に必要性の高い療養支援看護学、精神看護学、老年看護学から構成し、看護実践場面の特性をとらえた実践方法の研究・開発および教育を行う能力を育成する科目を配置します。
 - (c) 「次世代育成看護学」は、母性看護学と小児看護学から構成し、次世代を健康に育成していくための看護実践方法の研究・開発を行うとともに、看護専門職者としての実践能力および指導能力を育成する科目を配置します。
 - (d) 「広域看護学」は、地域看護学、国際看護学、看護管理学から構成し、看護に対する社会からの期待や要請の変化に対応できる能力を育成する科目を配置します。

(e) 「共通基礎科目」は、看護学研究および人材育成について、幅広い視点を持って進める目的で開講する。また、この科目群は、一般社団法人日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程審査基準要項に基づく専門看護師共通科目に位置づけられます。

- ③ <専門看護師コース>の主たる専攻は、〈専門看護師（母性看護）〈周産期母子援助〉コース〉〈専門看護師（小児看護）コース〉は次世代育成看護学を、〈専門看護師（老年看護）コース〉〈専門看護師（精神看護）コース〉〈専門看護師（クリティカルケア看護）コース〉は実践看護応用学とする。
- ④ <研究コース>では、4分野に大学院生一人ひとりの研究テーマに沿って、修士論文を作成する「特別研究」を配置します。
- ⑤ <専門看護師コース>では高度看護実践能力を育成するため、病院や福祉施設における臨地実習および専門領域の課題についての修士論文を作成する「課題研究」を配置します。

【教育方法】

学生が体系的に学びを進めるなかで、各科目の到達目標に達し、ディプロマポリシーに示す能力等を修得できるよう、次のように教育を行います。

- ① シラバスや履修の手引き等に、科目の到達目標・授業計画等を明示し、学生に履修・学修の指導を行うことで、学生の体系的な学びを促進します。
- ② 多様な授業形態のなかから、各科目の到達目標・内容に適した形態で授業を行うことで、学生の理解を促進します。
- ③ 学生のライフスタイルに合った柔軟な教育方法を取り入れます。

【学修成果の評価】

ディプロマポリシーに示す能力等の修得度合としての学生の学修成果は次のように評価します。

- ① ディプロマポリシーに則した到達目標や成績評価方法を科目ごとに設定し、シラバス等で明示したうえで、成績段階を決定します。

3) アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）は、教学理念および教育研究上の目的に則り、人間の存在や生命の尊厳への深い理解を基盤にし、広い視野に立ち精深な学識を修め、専門性の高い看護実践能力や教育研究能力を備えた、看護のスペシャリスト、管理者、教育者を育成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。

- ① 看護学の各専攻領域の基礎的な知識や技術を有する者。
- ② 高度専門職業人・教育研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲がある者。
- ③ 論理的思考と柔軟な発想、国際的視野をもって探求できる者。
- ④ 倫理的な感受性と判断力をもって行動できる者。
- ⑤ 協調性をもって積極的に意見を表明することができる者。

2. 博士前期課程の構成

看護学研究科博士前期課程には、修了後の進路に応じて2つのコースがあります。

研究コース	教育・研究・実践に携わる研究者や、病院等で看護管理・指導的役割を担う人材をめざす
専門看護師コース	専門看護師（CNS）の資格取得をめざす

また、4つの専攻分野・専攻領域で構成されています。

専攻分野	専攻領域	
	研究コース	専門看護師コース
実践看護基礎学	基礎看護学	
	看護教育学	
実践看護応用学	老年看護学	専門看護師（老年看護）
	精神看護学	専門看護師（精神看護）
	療養支援看護学	専門看護師 （クリティカルケア）
次世代育成看護学	小児看護学	専門看護師（小児看護）
	周産期／女性健康看護学	専門看護師（母性看護）
広域看護学	看護管理学	
	国際看護学	
	地域看護学	

3. 各専攻分野の特徴

◆ 実践看護基礎学

看護学は実践の科学であり、本研究科の目的が高度専門職業人の養成であることから、実践看護学の理論化を進め、学問としての位置づけを明確にしていかなければなりません。そのため実践看護基礎学においては、その目的・対象・方法について明らかにし、人々の健康に関与する実践看護学の基礎となる知識体系と実践体系を教授します。講義や演習を通して、看護理論や看護職者の育成を担う看護教育的側面などをもとに再考し、クライアント中心の看護を実現するためのあり方について探求します。

◆ 実践看護応用学

看護を提供する対象の特性によって、看護の方法が大きく変わることを前提に、本分野では、看護の対象、看護実践の場面の特性をとらえた実践方法の研究・開発および教育を行います。特に現代社会において必要性の高い療養支援看護学、精神看護学、老年看護学を設定します。

療養支援看護学においては、近年の医療科学技術の発展により増加している、集中ケア・緊急的ケアを提供する場面において、適切な倫理的配慮のもとに迅速かつ的確に判断し、高度な専門技術に基づいた看護を提供することができる専門家を養成します。

また、現代社会で人々の健康生活で大きな課題となっている生活習慣や生活の態様に関連して生じる健康障害の視点から援助体系を構築し、対象に適合した生活支援・援助を行うことができる人材を育成します。

精神看護学においては、複雑な現代社会において増加する、心の健康問題を抱える人々に対して、その健康障害の成り立ちや構造を解明し、予防や生活者が主体的に健康生活を志向する看護方法を開発するとともに、その実践ができる人材を育成します。

老年看護学においては、高齢社会の我が国において、老年者の QOL（生活の質）の視点から援助体系を構築する必要性を考慮し、幅広い保健医療福祉・行政等からのアプローチを行い、社会のニーズに対応した老年看護の方法の研究・開発を実施し、適切に実践と指導ができる専門職の養成を行います。

◆ 次世代育成看護学

少子化の現象は単に人口問題だけではなく、次世代育成に関して、母性の未発達化、育児能力の欠如、児童虐待、子どもの健康障害など、多くの社会問題を生み出しています。これらに対しては、保健医療福祉分野のみならず、教育・行政等からのアプローチも必要であり、看護の受け持つ分野も大きいことが認められています。そこで、本分野では、次世代を健康に育成していくための看護方法の研究・開発を行うとともに、看護専門職者としての実践能力および指導能力を備えた人材を育成します。母性看護学と小児看護学の領域があります。

◆ 広域看護学

看護に対する社会からの期待や要請は、近年その内容が変化してきていますが、こうした変化に対応する看護の役割・機能を遂行し、発展させるための方法の研究・開発と人材の育成を行う分野です。こうした側面へのアプローチを行うっていくために、地域看護学・看護管理学・国際看護学が含まれます。

まず、地域看護学においては、地域で暮らす住民の健康や保健行動には、その地域の地理的特性・文化・歴史的特性・健康観・価値観・生活様式などが複雑に関与している中で、地域住民の生活を整え、健康生活を支援するために、集団や共同体などの地域特性との関連性を中核にした看護の方法を研究・開発します。研究対象にはスピリチュアルケアや在宅看護を含みます。

また、社会における看護の機能には、①看護学の学問体系の構築、②看護を実践する上でのケア提供体制の構築や維持を担う看護管理的側面、③国内における異文化の国の人々への看護、あるいは国外における看護ニーズに対応するための研究・開発的側面があります。

◆ 共通基礎科目群

看護学研究および人材育成について、幅広い視点を持って進めるために、また、大学院生がそれぞれの目的や研究の方向に沿って必要な学修ができるように「共通基礎科目」群を開講しています。また、この科目群において、日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程審査基準要項に基づく、専門看護師共通科目を中心とした教育・研究を行います。

4. 博士前期課程の担当教員

講義科目・論文指導等を担当
(※@の後に tachibana-u.ac.jp)

分野	研究領域	担当教員	メールアドレス※
実践看護基礎学	基礎看護	教授 梶谷 佳子	kajitani@
	基礎看護	准教授 中橋 苗代	nakahashi@
	基礎看護	准教授 岡田 純子	okada-j@
	看護教育	教授 野島 敬祐	nojima@
	看護教育	准教授 佐藤 聖一	sato-se@
実践看護応用学	老年看護	教授 征矢野 あや子	soyano@
	老年看護	准教授 深山 つかさ	miyama-ts@
	老年看護	専任講師 十倉 絵美	tokura@
	精神看護	教授 松本 賢哉	matsumoto-k@
	精神看護	准教授 川村 晃右	kawamura-k@
	在宅看護	教授 河原 宣子	kawahara-n@
	成人看護	教授 奥野 信行	okuno-n@
次世代育成看護学	成人看護	准教授 小山 智史	koyama-tom@
	小児看護	教授 堀 妙子	hori@
	小児看護	専任講師 伊藤 弘子	ito-hi@
	母性看護	教授 工藤 里香	kudo-r@
	母性看護	准教授 竹 明美	take@
広域看護学	母性看護	准教授 長坂 桂子	nagasaka@
	看護管理	教授 半場 江利子	hanba-e@
	看護管理	准教授 餅田 敬司	mochida@
	国際看護	准教授 那須ダグバ 潤子	nasudagba-j@
	地域看護	准教授 黒龍 安紀子	kurotaki@
	地域看護	専任講師 下田 優子	shimoda@
	地域看護	専任講師 瀬川 裕美	segawa@

IV. 博士前期課程の入学から修了まで

1. 修了要件

看護学研究科博士前期課程の修了要件は、コースによって修了要件・履修単位・実習の有無が異なります。

◆ 博士前期課程研究コースの修了要件

在学年限	2年（長期履修の場合は3年）以上の在学
修得単位	合計30単位以上の修得

	共通基礎科目 B 以外の講義科目から必修科目を含む合計 10 単位以上+専攻分野の専門教育科目の講義科目 4 単位以上+演習科目 6 単位+特別研究 10 単位
論文	修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること

◆ 博士前期課程専門看護師コースの修了要件

在学年限	2 年（長期履修の場合は 3 年）以上の在学
修得単位	合計 46 単位以上の修得 共通基礎科目 A の必修科目を含む合計 8 単位以上+共通基礎科目 B の必修 6 単位 +専攻分野の専門教育科目の講義科目と演習科目を合わせて 14 単位+実習 10 単位+ 課題研究 8 単位
論文	修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること 特定の課題についての研究成果（課題研究報告書）をもって、修士論文に代えることができる

2. カリキュラム表

<博士前期課程> 2026 年度入学者カリキュラム

科目区分	授業科目名		単位	形式	配当 回生	開講期	研究 コース		CNS コース		
							必修	選択	必修	選択	
共通基礎科目A	看護理論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護研究		2	講義	1	前期	○		○		
	看護教育論		2	講義	1	後期		○		○	
	コンサルテーション論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護管理論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護政策論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護倫理論		2	講義	1	後期		○		○	
共通基礎科目B	フィジカルアセスメント		2	講義	1	後期			○		
専攻 分野	専攻 領域	臨床薬理学		2	講義	1	後期			○	
		病態生理学		2	講義	1	後期			○	
専 門 教 育 科 目	実践看護基礎学	学 基礎看護	実践看護基礎学特論		2	講義	1	前期		○	
			実践看護基礎学演習Ⅰ		2	演習	1	前期		○	
			実践看護基礎学演習Ⅱ		2	演習	1	後期		○	
			実践看護基礎学演習Ⅲ		2	演習	1	後期		○	
		学 看護教育	看護教育学特論		2	講義	1	後期		○	
			看護教育学演習Ⅰ		2	演習	1	前期		○	
			看護教育学演習Ⅱ		2	演習	1	後期		○	
	看護教育学演習Ⅲ		2	演習	1	後期		○			
	実践看護応用学	・ 老年看護学 ・ 専門看護師（老年看護）	実践看護応用学特論（老年）		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅰ		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅱ		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅲ		2	講義	1	後期		○	○
			老年看護学Ⅳ		2	講義	1	後期		○	○
			実践看護応用学演習Ⅰ（老年）		2	演習	1	前期		○	○
実践看護応用学演習Ⅱ（老年）			2	演習	1	後期			○		
実践看護応用学実習Ⅰ（老年）			2	実習	1	通年			○		
実践看護応用学実習Ⅱ（老年）			4	実習	1	通年			○		
実践看護応用学実習Ⅲ（老年）		4	実習	2	前期			○			
・ 精神看護学 ・ 専門看護師（精神看護）		実践看護応用学特論Ⅰ（精神）		2	講義	1	前期		○	○	
		実践看護応用学特論Ⅱ（精神）		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅰ		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅱ		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅲ		2	講義	1	後期		○	○	
		精神看護学Ⅳ		2	講義	1	後期		○	○	
		実践看護応用学演習Ⅰ（精神）		2	演習	1	後期		○	○	
	実践看護応用学演習Ⅱ（精神）		2	演習	1	後期			○		
実践看護応用学実習Ⅰ（精神）		5	実習	2	前期			○			
実践看護応用学実習Ⅱ-1（精神）		5	実習	2	前期			○			

			実践看護応用学実習Ⅱ-2（精神）	5	実習	2	通年				○
--	--	--	------------------	---	----	---	----	--	--	--	---

科目区分		授業科目名	単位	形式	配当 回生	開講期	研究コース		CNSコース		
							必修	選択	必修	選択	
専 門 教 育 科 目	実践看護応用学	療養支援看護師（クリティカルケア） 実践看護応用学特論Ⅰ（療養支援）	2	講義	1	前期		○			
		クリティカルケア看護特論	1	講義	1	前期		○	○		
		クリティカルケア家族看護論	1	講義	1	前期		○	○		
		クリティカルケア臨床判断総論	2	講義	1	前期			○		
		急性・重症患者病態生理学特論	2	講義	1	前期			○		
		クリティカルケア看護論Ⅰ	2	講義	1	前期			○		
		クリティカルケア看護論Ⅱ	2	講義	1	後期			○		
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	演習	1	後期			○		
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○	○		
		実践看護応用学実習Ⅰ（クリティカルケア）	3	実習	1	後期			○		
		実践看護応用学実習Ⅱ（クリティカルケア）	3	実習	2	通年			○		
		実践看護応用学実習Ⅲ（クリティカルケア）	4	実習	2	通年			○		
		実践看護応用学合同演習Ⅰ（療養支援・精神・老年）	2	演習	1	後期		○			
		実践看護応用学合同演習Ⅱ（療養支援・精神・老年）	2	演習	1	後期		○			
	次世代育成看護学	小児看護師（小児看護）コース	次世代育成看護学特論Ⅰ（小児）	2	講義	1	前期		○		
			次世代育成看護学特論Ⅱ（小児）	2	講義	1	後期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅰ（小児）	2	演習	1	前期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅱ（小児）	2	演習	1	後期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅲ（小児）	2	演習	1	後期		○		
			小児看護学特論Ⅰ	2	講義	1	前期			○	
小児看護学特論Ⅱ			2	講義	1	前期			○		
小児看護学特論Ⅲ			2	講義	1	通年			○		
小児看護学特論Ⅳ			2	講義	1	後期			○		
小児看護学特論Ⅴ			2	講義	1	後期			○		
小児看護学演習Ⅰ			2	演習	2	通年			○		
小児看護学演習Ⅱ			2	演習	2	通年			○		
小児看護学実習Ⅰ			2	実習	1	後期			○		
小児看護学実習Ⅱ			4	実習	2	前期			○		
小児看護学実習Ⅲ			4	実習	2	後期			○		

科目区分			授業科目名	単位	形式	配当 回生	開講期	研究コース		CNSコース		
								必修	選択	必修	選択	
専 門 教 育 科 目	次 世 代 育 成 看 護 学	・ 専門看護師(母性看護) ・ 周産期/女性健康看護学	次世代育成看護学特論Ⅰ(周産期)	2	講義	1	前期		○	○		
			次世代育成看護学特論Ⅱ(ウイメンズヘルス)	2	講義	1	前期		○	○		
			次世代育成看護学Ⅰ(周産期看護)	2	講義	1	前期		○	○		
			次世代育成看護学Ⅱ(ウイメンズヘルス・ケア)	2	講義	1	前期		○	○		
			次世代育成看護学演習Ⅰ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	1	通年		○	○		
			次世代育成看護学演習Ⅱ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	2	通年		○	○		
			次世代育成看護学演習Ⅲ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	2	通年		○	○		
			次世代育成看護学実習Ⅰ-1(周産期看護)	3	実習	1	後期				○	
			次世代育成看護学実習Ⅰ-2(周産期看護)	3	実習	2	前期				○	
			次世代育成看護学実習Ⅱ(ウイメンズヘルス・ケア)	4	実習	2	通年				○	
広 域 看 護 学	管 理 学	看 護	看護管理学特論	2	講義	1	後期		○			
			看護管理学演習Ⅰ	2	演習	1	前期		○			
			看護管理学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○			
			看護管理学演習Ⅲ	2	演習	1	後期		○			
	国 際	看 護 学	国際看護学特論	2	講義	1	前期		○			
			国際看護学演習Ⅰ	2	演習	1	前期		○			
			国際看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○			
			国際看護学演習Ⅲ	2	演習	1	後期		○			
	地 域	看 護 学	地域看護学特論	2	講義	1	前期		○			
			地域看護学演習Ⅰ	2	演習	1	前期		○			
			地域看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○			
			地域看護学演習Ⅲ	2	演習	1	後期		○			
研 究 科 目			特別研究Ⅰ	2	演習	1	前期	○				
			特別研究Ⅱ	2	演習	1	後期	○				
			特別研究Ⅲ	2	演習	2	前期	○				
			特別研究Ⅳ	4	演習	2	後期	○				
			課題研究Ⅰ	2	演習	1	前期			○		
			課題研究Ⅱ	2	演習	1	後期			○		
			課題研究Ⅲ	2	演習	2	前期			○		
			課題研究Ⅳ	2	演習	2	後期			○		

※長期履修生についても「特別研究」「課題研究」の成績は2回生終了時に評価されますが、残り1年間の研究指導は継続されます。

※上記表の科目以外に、修了予定年度に「修士論文」が科目登録されます。

<博士前期課程> 2024・2025 年度入学者カリキュラム

科目区分	授業科目名		単位	形式	配当 回生	開講期	研究コース		CNSコース		
							必修	選択	必修	選択	
共通基礎科目A	看護理論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護研究		2	講義	1	前期	○		○		
	看護教育論		2	講義	1	後期		○		○	
	コンサルテーション論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護管理論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護政策論		2	講義	1	前期		○		○	
	看護倫理論		2	講義	1	後期		○		○	
共通基礎科目B	フィジカルアセスメント		2	講義	1	後期			○		
専攻 分野	専攻 領域	臨床薬理学		2	講義	1	後期			○	
		病態生理学		2	講義	1	後期			○	
		実践看護基礎学特論		2	講義	1	前期		○		
専 門 教 育 科 目	実践看護基礎学	看護学	実践看護基礎学演習Ⅰ		2	演習	1	前期		○	
			実践看護基礎学演習Ⅱ		2	演習	1	後期		○	
			実践看護基礎学演習Ⅲ		2	演習	1	後期		○	
		教育学	看護教育学特論		2	講義	1	後期		○	
			看護教育学演習Ⅰ		2	演習	1	前期		○	
			看護教育学演習Ⅱ		2	演習	1	後期		○	
	看護教育学演習Ⅲ		2	演習	1	後期		○			
	実践看護応用学	．． 老年看護学 専門看護師 (老年看護)	実践看護応用学特論(老年)		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅰ		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅱ		2	講義	1	前期		○	○
			老年看護学Ⅲ		2	講義	1	後期		○	○
			老年看護学Ⅳ		2	講義	1	後期		○	○
実践看護応用学演習Ⅰ(老年)			2	演習	1	前期		○	○		
実践看護応用学演習Ⅱ(老年)			2	演習	1	後期			○		
実践看護応用学実習Ⅰ(老年)			2	実習	1	通年			○		
実践看護応用学実習Ⅱ(老年)			4	実習	1	通年			○		
実践看護応用学実習Ⅲ(老年)		4	実習	2	前期			○			
．． 精神看護学 専門看護師 (精神看護)		実践看護応用学特論Ⅰ(精神)		2	講義	1	前期		○	○	
		実践看護応用学特論Ⅱ(精神)		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅰ		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅱ		2	講義	1	前期		○	○	
		精神看護学Ⅲ		2	講義	1	後期		○	○	
		精神看護学Ⅳ		2	講義	1	後期		○	○	
		実践看護応用学演習Ⅰ(精神)		2	演習	1	後期		○		○
		実践看護応用学演習Ⅱ(精神)		2	演習	1	後期				○
	実践看護応用学実習Ⅰ(精神)		5	実習	2	前期			○		
実践看護応用学実習Ⅱ-1(精神)		5	実習	2	前期				○		
実践看護応用学実習Ⅱ-2(精神)		5	実習	2	通年				○		

科目区分		授業科目名	単位	形式	配当 回生	開講期	研究コース		CNSコース		
							必修	選択	必修	選択	
専 門 教 育 科 目	実践看護応用学	・ 療養支援看護学 ・ 専門看護師（クリティカルケア）	実践看護応用学特論Ⅰ（療養支援）	2	講義	1	前期		○		
			クリティカルケア看護特論	1	講義	1	前期		○	○	
			クリティカルケア家族看護論	1	講義	1	前期		○	○	
			クリティカルケア臨床判断総論	2	講義	1	前期			○	
			急性・重症患者病態生理学特論	2	講義	1	前期			○	
			クリティカルケア看護論Ⅰ	2	講義	1	前期			○	
			クリティカルケア看護論Ⅱ	2	講義	1	後期			○	
			クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	演習	1	後期		○	○	
			クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期			○	
			実践看護応用学実習Ⅰ（クリティカルケア）	3	実習	1	後期			○	
			実践看護応用学実習Ⅱ（クリティカルケア）	3	実習	2	通年			○	
			実践看護応用学実習Ⅲ（クリティカルケア）	4	実習	2	通年			○	
	実践看護応用学		実践看護応用学合同演習Ⅰ（療養支援・精神・老年）	2	演習	1	後期		○		
			実践看護応用学合同演習Ⅱ（療養支援・精神・老年）	2	演習	1	後期		○		
	次世代育成看護学	・ 小児看護学 ・ 専門看護師（小児看護）コース	次世代育成看護学特論Ⅰ（小児）	2	講義	1	前期		○		
			次世代育成看護学特論Ⅱ（小児）	2	講義	1	後期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅰ（小児）	2	演習	1	前期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅱ（小児）	2	演習	1	後期		○		
			次世代育成看護学演習Ⅲ（小児）	2	演習	1	後期		○		
			小児看護学特論Ⅰ	2	講義	1	前期			○	
小児看護学特論Ⅱ			2	講義	1	前期			○		
小児看護学特論Ⅲ			2	講義	1	通年			○		
小児看護学特論Ⅳ			2	講義	1	後期			○		
小児看護学特論Ⅴ			2	講義	1	後期			○		
小児看護学演習Ⅰ			2	演習	2	通年			○		
小児看護学演習Ⅱ			2	演習	2	通年			○		
小児看護学実習Ⅰ			2	実習	1	後期			○		
小児看護学実習Ⅱ			4	実習	2	前期			○		
小児看護学実習Ⅲ	4	実習	2	後期			○				

科目区分		授業科目名	単位	形式	配当 回生	開講期	研究コース		CNSコース		
							必修	選択	必修	選択	
専 門 教 育 科 目	・ 専門看護師(母性看護) ・ 周産期/女性健康看護学	次世代育成看護学特論Ⅰ(周産期)	2	講義	1	前期		○	○		
		次世代育成看護学特論Ⅱ(ウイメンズヘルス)	2	講義	1	前期		○	○		
		次世代育成看護学Ⅰ(周産期看護)	2	講義	1	前期		○	○		
		次世代育成看護学Ⅱ(ウイメンズヘルス・ケア)	2	講義	1	前期		○	○		
		次世代育成看護学演習Ⅰ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	1	通年		○	○		
		次世代育成看護学演習Ⅱ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	2	通年		○	○		
		次世代育成看護学演習Ⅲ(周産期・ウイメンズヘルス)	2	演習	2	通年		○	○		
		次世代育成看護学実習Ⅰ-1(周産期看護)	3	実習	1	後期			○		
		次世代育成看護学実習Ⅰ-2(周産期看護)	3	実習	2	前期			○		
		次世代育成看護学実習Ⅱ(ウイメンズヘルス・ケア)	4	実習	2	通年			○		
		広域看護学	管理看護学	看護管理学特論	2	講義	1	後期		○	
	看護管理学演習Ⅰ			2	演習	1	前期		○		
	看護管理学演習Ⅱ			2	演習	1	後期		○		
	看護管理学演習Ⅲ			2	演習	1	後期		○		
	国際看護学		国際看護学特論	2	講義	1	前期		○		
			国際看護学演習Ⅰ	2	演習	1	前期		○		
			国際看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○		
			国際看護学演習Ⅲ	2	演習	1	後期		○		
	地域看護学		地域看護学特論	2	講義	1	前期		○		
			地域看護学演習Ⅰ	2	演習	1	前期		○		
			地域看護学演習Ⅱ	2	演習	1	後期		○		
			地域看護学演習Ⅲ	2	演習	1	後期		○		
	研究科目	特別研究Ⅰ	2	演習	1	前期	○				
		特別研究Ⅱ	2	演習	1	後期	○				
		特別研究Ⅲ	2	演習	2	前期	○				
		特別研究Ⅳ	4	演習	2	後期	○				
		課題研究Ⅰ	2	演習	1	前期			○		
		課題研究Ⅱ	2	演習	1	後期			○		
課題研究Ⅲ		2	演習	2	前期			○			
課題研究Ⅳ		2	演習	2	後期			○			

※長期履修生についても「特別研究」「課題研究」の成績は2回生終了時に評価されますが、残り1年間の研究指導は継続されます。

※上記表の科目以外に、修了予定年度に「修士論文」が科目登録されます。

3. 入学から修了までの基本スケジュール

履修のイメージ（一例）を示します。カリキュラムの詳細は、前項の入学年度別の「2. カリキュラム表」を参照してください。修士論文については次項の「4. 修士（看護学）学位論文の作成」を参照してください。

長期履修生についても「特別研究」「課題研究」の成績は2回生終了時に評価されますが、残り1年間の研究指導は継続されます。

専門看護師コースでは、実習前に履修したほうが良い科目や臨地と実習時期の調整が必要な場合があるため、指導教員に相談のうえ、計画的に履修してください。

	研究コース		専門看護師コース	
	標準	長期履修	標準	長期履修
M1 回生	共通基礎科目 A 専攻分野の講義・演習科目 特別研究 I・II 研究計画書提出		共通基礎科目 A・B 専攻分野の講義・演習・実習科目 課題研究 I・II 研究計画書提出	
M2 回生	共通基礎科目 A 専攻分野の講義・演習科目 特別研究 III・IV 修士論文提出		共通基礎科目 A・B 専攻分野の講義・演習・実習科目 課題研究 III・IV 修士論文（課題研究報告書）提出	
M3 回生	研究計画書提出 修士論文提出		研究計画書提出 修士論文（課題研究報告書）提出	

※履修状況や休学等で上記とは異なる場合があるため、個別に指導教員または看護・医療系事務課に相談してください。

4. 修士（看護学）学位論文の作成

専門看護師コースでは、特定の課題に関する「課題研究報告書」を「修士論文」に代えることができます。この場合、臨地実践に基づく事例研究を行い、研究指導教員が継続的に評価と指導（スーパーバイズ）を行います。

(1) 修士（看護学）学位論文完成までの道のり

日程	入学年度	修了年度	
		3月修了	9月修了
2026年3月10日 4月 4月8日	研究指導教員決定	研究計画書提出・審査 (研究倫理審査)	
5月	研究指導教員のもと 研究課題を明確化	研究実施	
6月			
7月14日～15日 7月下旬			修士論文提出・審査 修士論文発表会
8月			
9月17日まで 9月18日			修士論文製本提出 学位授与式（修了式）
10月			
11月4日	仮題目提出		
12月2日	研究計画書提出・審査		
2027年 1月 1月12日～13日 1月26日	(研究倫理審査)	修士論文提出・審査 修士論文発表会	
2月			
3月3日 3月11日まで 3月12日	仮題目提出	修士論文製本提出 学位授与式（修了式）	
4月7日	研究計画書提出		

◎上記スケジュールは京都橋大学学位規程に基づき実施されています。

(2) 研究指導教員の決定

大学院入試の際に提出している「志望理由書」に基づいて、学生各自の基本研究分野を確認するとともに、研究指導教員（主指導教員）を決定します。副指導教員については、研究内容に応じて後日決定します。

研究指導体制

- ・ 研究指導体制は、主指導教員 1 名および副指導教員 2 名で構成する。
- ・ 主指導教員は、専門分野の教員 1 名とし、研究指導における中心的役割を担う。
- ・ 副指導教員は、研究内容の専門性を助言できる教員 1 名、および研究方法に関する助言ができる教員 1 名、あるいは専門分野以外の教員で修士論文指導が担える教員とし、その役割は主指導教員を補佐し、より広い専門的視野から研究と論文作成の助言を行う。

(3) 修士論文等仮題目届の提出

次年度に修士論文を提出しようとする者は、主指導教員の承認を得たうえ、下記の 2 期のいずれかの期日までに、「修士論文等仮題目届」（ポータルサイトにて配信）を提出します。

◆ 「修士論文等仮題目届」提出期限

前期:2026年11月4日(水) 16:00まで

後期:2027年03月3日(水) 16:00まで

◆ 「修士論文等仮題目届」提出方法について

提出方法:看護・医療系事務課までメール添付にて提出

送付先:aca-nm@tachibana-u.ac.jp

添付データ:PDF化した「修士論文等仮題目届」

- ・ 主指導、副指導が確認したものを提出してください。
- ・ CCに主指導、副指導を入れ提出してください。
- ・ メールの件名は「学籍番号 氏名 修士論文等仮題目届」としてください。
- ・ 提出日時は、メールの受信時間で判断しますので、余裕をもって提出してください。
- ・ 提出は1回限りです。

(4) 修士論文研究計画書の提出

「修士論文研究計画書」(様式は自由)を下記の2期のいずれかの期日までに提出します。

◆ 「修士論文研究計画書」提出期限

前期:2026年12月2日(水) 16:00まで

後期:2027年4月7日(水) 16:00まで

◆ 「修士論文計画書」提出方法について

提出方法:看護・医療系事務課までメール添付にて提出

送付先:aca-nm@tachibana-u.ac.jp

添付データ:PDF化した「修士論文研究計画書」

- ・ 主指導、副指導が確認したものを提出してください。
- ・ CCに主指導、副指導を入れ提出してください。
- ・ メールの件名は「学籍番号 氏名 修士論文研究計画書」としてください。
- ・ 提出日時は、メールの受信時間で判断しますので、余裕をもって提出してください。
- ・ 提出は1回限りです。

(5) 修士論文研究計画書の審査

修士論文研究計画書の提出から1~2週間後頃に研究計画書審査会が開かれます。これは個々の学生とその研究指導教員(主指導教員・副指導教員)で開き、審査および助言を行うものです。その後の研究科会議で合格または条件付き合格と判定された場合は、研究倫理審査を受けることができます。

審査後、主指導教員は「M研究計画書審査報告書」を作成し、メール添付にて看護学研究科長(Cc:大学院委員、副指導教員、看護・医療系事務課)に提出します。

(6) 研究倫理審査

研究指導教員（主指導教員・副指導教員）の審査を受け、承認を得たうえで、必要書類を研究倫理委員会に提出し、審査を受けます。詳細は、本学 HP トップページ> 大学紹介> 取り組み・活動> 研究倫理に関する取り組み > 研究倫理委員会への申請手続きについて」で確認してください。

http://www.tachibana-u.ac.jp/about/efforts/ethic/application_procedure.html

なお、申請の手続きまでに研究倫理教育を受講しなければなりません。本学では研究倫理教育として「APRINe-learning(APRIN)」の受講修了を必須としています。

(7) 修士論文の作成

◆体裁

- ① A4 サイズ（縦）用紙に横書き
- ② 表紙に題目（タイトル、副題:和文と英文で記載）、所属、学籍番号、学生氏名を記載
- ③ 文字サイズは 11 ポイント、1 枚につき 40 字×30 行 = 1,200 字を目安とする
- ④ 本文は 20 枚～50 枚（総字数にして 24,000 字～60,000 字）程度とし、下部中央にページ数を挿入する
 - ・ 註は本文として上記枚数に含める
 - ・ 資料、図表、写真等は本文の枚数に含めない
- ⑤ 表紙、要約、目次、本文、図表、資料の順に綴じる。図や表は本文に挿入しても良い
- ⑥ 要約は、文字サイズ 11 ポイントとし、体裁は様式 M-1 を参照

(8) 修士論文と学位授与申請書（修士）の提出

ポータルサイトから案内される様式および提出方法を遵守して提出します。

◆提出期間

【前期】2026 年 7 月 14 日（火）～2025 年 7 月 15 日（水）16:00 まで

【後期】2027 年 1 月 12 日（火）～2027 年 1 月 13 日（水）16:00 まで

◆提出内容

- ① 修士論文
- ② 要約（様式 M-1）※修士論文内に挿入しますが、改めて提出します。
- ③ 学位授与申請書（修士）
- ④ 修士論文に対する「図書館利用における許諾」の届出書
 - ・ ファイル形式は全て PDF（10MB 以下）としてください。
 - ・ ③④はポータルサイトから様式を配信します。
- ⑤ なお、論文等の製本要領、電子ファイルの提出、その他の詳細については研究指導教員の指示に従ってください。

(9) 修士（看護学）学位論文の審査（口頭試問）

修士論文の審査は、主指導教員および副指導教員を含む3名以上で構成される学位論文審査委員会（審査会）により実施されます。副指導教員のうち1名が「主査」、残りの教員が「副査」を務め、修士論文の審査ならびに口頭試問（必要に応じて筆記試験）が行われます。合格または条件付き合格の場合は修士論文発表会（最終試験）へ進みます。

審査後、主査は「M 修士論文審査報告書」を作成し、メール添付にて看護学研究科長（Cc:大学院委員、副査、看護・医療系事務課）に提出します。

看護学研究科博士前期課程の修士論文および課題研究報告書の審査基準は下記のとおりです。

修士論文	課題研究報告書
1) 独自のテーマ設定を行っているか。	1) 専門領域の看護実践の質向上につながるテーマ設定を行っているか。
2) 先行研究の十分な検討を行っているか。	2) 先行研究の十分な検討を行っているか。
3) 基礎的な研究・実験資料の集成のうえに立っているか。	3) 基礎的な研究・実験資料の集成のうえに立っているか。
4) 実証的な分析を行っているか。	4) 実証的な分析を行っているか。
5) 論理的な一貫性を持って記述しているか。	5) 論理的な一貫性を持って記述しているか。
6) 論者自身の解釈や見解を明確に表明しているか。	6) 論者自身の解釈や見解を明確に表明しているか。
7) 看護学実践の発展に貢献するものであるか。	7) 看護学実践の質向上に資する結果が得られているか。

(10) 修士論文発表会（最終試験）

最終試験は、修士論文発表会（発表・質疑応答 各 20 分）として実施し、審査対象学生、大学院指導教員、大学院生等が参加します。

◆発表会予定日

【前期】論文提出後に調整予定

【後期】2027年1月26日（火）

なお、審査ならびに最終試験の結果は、研究科会議において合否が審議されます。

修士論文発表会后、主査は「学位授与記録簿（修士）」を作成し、メール添付にて看護学研究科長（Cc:大学院委員、副査、看護・医療系事務課）に提出します。また、研究科会議終了後に押印済の「学位授与記録簿（修士）」を看護・医療系事務課に提出します。

(11) 修士論文の製本

最終試験に合格した「修士論文」は、下記の要領で製本し、学位授与式前日までに看護・医療系事務課に1部提出します。これを図書館保管資料とします。研究指導教員等へは、各自で必要部数を作成し、直接お渡しください。

- ① 用紙は A4 サイズとし、表紙はソフトカバー（色は自由）、本文は白地とする。
- ② 表紙の次に論文タイトル、氏名を記載した「中綴じ」を入れる。

- ③ 表紙、中綴じ、修士論文要約、目次、本文、図表、資料の順に綴じる。図や表は本文に挿入しても良い。
- ④ 本文は、上部余白 3.0cm、下部余白 3.0cm、左側余白 2.5cm、右側余白 2.5cm をあける。文字は、11 ポイントで 1 ページの文字数 40 字×30 行の 1,200 字を目安とする。本文には、下部中央にページ数を入れる。印刷は、両面印刷とする。
- ※「中綴じ」「修士論文要約」「目次」にページ数は入れない。
- ⑤ 表紙（表・裏）、背表紙は、様式 M-2 に示すフォーマットを参考にする。
- ※「背表紙」には縦書きで「20〇〇年度 修士論文 論文タイトル 氏名」を記載すること。
- ※「裏表紙」に大学名と大学マークを使用するかどうかは、各自の希望による。大学ロゴマークを使用する場合は、看護・医療系事務課に申し出ること。

様式 M-1

修士論文要約 学籍番号 氏名 	
論文題目	
文字数1,200字を目安とする	

※「修士論文」「課題研究レポート」等と提出する要約には、必ず学籍番号と氏名を記載すること。

※「修士論文」「課題研究レポート」等を製本する際の要約には、学籍番号と氏名を記載する必要はない。

様式 M-2

裏表紙	背表紙	表紙
大学ロゴ 京都橋大学 KyotoTachibanaUniversity	2 0 0 0 年 度 修 士 論 文 論 文 タ イ ト ル 氏 名	2000年度京都橋大学大学院看護学研究科 修士論文 論文タイトル：1 - 2行 氏 名

5. 養護教諭専修免許状の取得

看護学研究科博士前期課程では、養護教諭 1 種免許状を有する場合、または所要資格を得ている場合、養護教諭専修免許状の取得が可能です。

1) 専修免許状取得の基礎資格と必要修得単位数

基礎資格:修士の学位を有すること

学部における最低修得単位数:

養護に関する科目 28 単位

教育の基礎的理解に関する科目等 21 単位

大学が独自に設定する科目 7 単位

大学院における大学が独自に設定する科目*の最低修得単位数:24 単位

2) 履修および免許状申請手続き

(1) 専修免許状取得希望登録

専修免許状の取得を希望する大学院生は、専修免許状取得希望登録が必要です。修了年度の履修登録期間終了までに教職保育職支援センターへ申し出のうえ、UNIPA で取得希望資格登録を行ってください。

(2) 免許状申請手続

修了年度の 10 月下旬～11 月に教員免許状授与申請ガイダンスを行いますので、免許状申請を希望される方は必ず出席してください。

*:大学が独自に設定する科目（養護に関する科目）

下記の授業科目より24単位以上修得すること。カッコ内の数字は単位数を示す。

看護理論（2）

看護研究（2）

看護教育論（2）

コンサルテーション論（2）

実践看護基礎学特論（2）

実践看護基礎学演習Ⅰ（2）

実践看護基礎学演習Ⅱ（2）

実践看護基礎学演習Ⅲ（2）

看護教育学演習Ⅰ（2）

看護教育学演習Ⅱ（2）

看護教育学演習Ⅲ（2）

次世代育成看護学演習Ⅰ（小児）（2）

次世代育成看護学演習Ⅱ（小児）（2）

次世代育成看護学演習Ⅲ（小児）（2）

国際看護学特論（2）

地域看護学特論（2）

国際看護学演習Ⅰ（2）

国際看護学演習Ⅱ（2）

国際看護学演習Ⅲ（2）

地域看護学演習Ⅰ（2）

地域看護学演習Ⅱ（2）

地域看護学演習Ⅲ（2）

6. 認定看護管理者に関する科目

認定看護管理者申請に該当する授業科目は、広域看護学分野の看護管理学専攻の次の科目です。申請内容等の詳細は、日本看護協会認定看護管理者資格認定制度で確認してください。カッコ内は単位数および科目内容を示します。

看護政策論（2）

看護管理学特論（2）

看護管理学演習Ⅰ（2）（看護経営管理論）

看護管理学演習Ⅱ（2）（看護経営者論）

看護管理学演習Ⅲ（2）（看護経済組織論）

V. 看護学研究科 博士後期課程

1. 博士後期課程の3つのポリシー

博士後期課程の人材養成目標

看護学の研究としてヘルスケアの成果を示すことにつながるアウトカムリサーチを志向した研究活動を行い、高度な専門的業務に従事し医療の質改善に必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材を育成します。

◆アウトカムリサーチを志向する研究者の育成

看護実践の質の改善に向けたエビデンスを創造し、医療の質を改善する改革を進めていく原動力となる研究を自立して実施できる高度な研究能力を持つアウトカムリサーチ志向型研究者を育成します。

◆組織やケアシステムを変革・構築できる高度な看護管理者の育成

看護ケアの質の管理やスタッフ看護職の実践を研究的にデータ化し、高度専門職業人を活用する効果的な人事管理ができ、アウトカムマネジメントの役割を担う高度な看護管理者（トップマネージャー）を育成します。

◆高等教育機関における看護教育者の育成

研究成果を活用した最新のエビデンスをもとに教育を担うと同時に、看護学研究者として看護学の知の創造ができ、学問体系の構築と学問の発展に貢献できる看護教育者を育成します。

1) ディプロマポリシー（学位授与方針）

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）は、教学理念および教育研究上の目的に則り、人間の存在や生命の尊厳への深い理解を基盤にし、広い視野に立ち清深な学識を修め、アウトカムリサーチを志向し高い研究能力を備えた研究者・教育者、看護管理者を育成することをめざしている。そのために看護学専攻（博士後期課程）では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査および最終試験に合格した者に博士（看護学）の学位を授与します。

- ① アウトカムリサーチを志向する高度な水準の研究能力を修得している。
- ② 最新のエビデンスをもとに新たな知識と技術を創造し、看護学の学問体系の構築に寄与する能力を修得している。
- ③ 医療制度および政策的知識を統合して効率的なマネジメントを行い、看護実践を変革できる能力を修得している。
- ④ 学際的かつグローバルに取り組み、新たな看護の知識や技術を社会に発信できる能力を修得している。
- ⑤ 看護学の発展を支える次世代を育てる教育力を修得している。
- ⑥ 看護の学識者としての倫理観を備え、看護哲学を追究する能力を修得している。

2) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）は、博士前期課程（修士課程）における教育を基礎として、博士前期課程修了後の看護実践から得た課題を、看護学や諸科学の理論を活用し分析を深め、アウトカムリサーチを志向し新たなエビデンスを創造しながら、看護学としての学問体系を構築できる研究者・教育者、および看護管理者を育成することを教育目標とする。この教育目標を達成するため、次のような体系を持つ教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

- (1) 教育課程は、アウトカムに焦点を当てた高度な研究法や保健医療福祉における変革を担える能力を修得する「共通科目」、教育研究分野に対応する特論演習で構成する「専門科目」、専門分野のコースワークと連動したリサーチワークを行う「特別研究」で構成します。
- (2) 教育研究分野は、実践看護基礎学、実践看護応用学、次世代育成看護学、および広域看護学の4分野で構成します。
- (3) 教育研究分野の内容は、以下のとおりとします。
 - ① 実践看護基礎学は、質の高い看護実践を保証していくために、看護実践の基盤となる技術や教育方法を実証的に明らかにし、それらを再構築して、本質から実践へと有機的につなぎ、看護学のモデルを構築します。
 - ② 実践看護応用学は、成人や高齢者および精神の健康問題をもつ人々の療養生活を支援する介入研究を通し、エビデンスを創造し、看護学のモデルを構築します。
 - ③ 次世代育成看護学は、女性と子どもおよび家族を支援する介入研究を通し、エビデンスを創造し、看護学のモデルを構築します。
 - ④ 広域看護学は、組織の変革や政策提言につながる成果研究を通し、看護システムを提言できる研究を行います。

【教育方法】

学生が体系的に学びを進めるなかで、各科目の到達目標に達し、ディプロマポリシーに示す能力等を修得できるよう、次のように教育を行います。

- ① シラバスや履修の手引き等に、科目の到達目標・授業計画等を明示し、学生に履修・学修の指導を行うことで、学生の体系的な学びを促進します。
- ② 多様な授業形態のなかから、各科目の到達目標・内容に適した形態で授業を行うことで、学生の理解を促進します。
- ③ 学生のライフスタイルに合った柔軟な教育方法を取り入れます。

【学修成果の評価】

ディプロマポリシーに示す能力等の修得度合としての学生の学修成果は次のように評価します。

- ① ディプロマポリシーに則した到達目標や成績評価方法を科目ごとに設定し、シラバス等で明示したうえで、成績段階を決定します。

3) アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）は、教学理念および教育研究上の目的に則り、人間の存在や生命の尊厳への深い理解を基盤にし、広い視野に立ち清深な学識を修め、アウトカムリサーチを志向し高い研究能力を備えた研究者・教育者、看護管理者を育成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求めます。

- ① 看護学の各専攻分野の専門的な知識や技術を有する者。
- ② 高度専門職業人・教育研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲がある者。
- ③ 看護実践において論理的思考と柔軟な発想、グローバルな視野をもって変革にとりくめる者。

2. 博士後期課程の構成

分野	研究領域
実践看護基礎学	基礎看護
	看護教育
実践看護応用学	老年看護
	精神看護
	成人看護
	在宅看護
次世代育成看護学	小児看護
	母性看護
広域看護学	看護管理
	国際看護
	地域看護

3. 博士後期課程の研究指導体制

1) 研究指導体制

主指導教員 1 名および副指導教員 2 名で構成する。

主指導教員	研究指導における中心的役割を担う。
副指導教員	研究内容の専門性を助言できる教員 1 名、および研究方法に関する助言ができる教員 1 名で博士論文研究指導が担える教員とし、その役割は主指導教員を補佐し、より広い専門的視野から研究と論文作成の助言を行う。

2) 研究審査体制

看護学研究科会議において審査体制を決定します。

- ① 研究計画書の審査は、研究指導の過程として主指導教員および副指導教員が担当します。
- ② 学位請求論文審査は、学位論文審査委員会から委嘱された看護学研究科会議の構成員等が主査(1 名)、副査(2 名以上)を担当します。

主査	主査は、主指導教員および副指導教員を除く博士後期課程の担当教員が務める。博士論文主指導教員で修士論文主指導教員として輩出実績を持つ者とする。
副査	主指導教員および副指導教員が務める。研究科が必要と認めるときは、学内の他の研究科教員、その研究内容や研究方法に精通している他大学や研究所等の教員を含めることができる。

4) 博士後期課程教員（授業/論文指導等を担当）

分野	研究領域	担当教員	メールアドレス※
実践看護 基礎学	基礎看護	教 授 梶谷 佳子	kajitani@
	基礎看護	准 教授 中橋 苗代	nakahashi@
	基礎看護	准 教授 岡田 純子	okada-j@
	看護教育	教 授 野島 敬祐	nojima@
	看護教育	准 教授 佐藤 聖一	sato-se@
実践看護 応用学	老年看護	教 授 征矢野 あや子	soyano@
	老年看護	准 教授 深山 つかさ	miyama-ts@
	精神看護	教 授 松本 賢哉	matsumoto-k@
	精神看護	准 教授 川村 晃右	kawamura@
	成人看護	教 授 奥野 信行	okuno-n@
	成人看護	准 教授 小山 智史	koyama-tom@
	在宅看護	教 授 河原 宣子	kawahara-n@
次世代育成 看護学	小児看護	教 授 堀 妙子	hori@
	母性看護	教 授 工藤 里香	kudo-r@
	母性看護	准 教授 竹 明美	take@
	母性看護	准 教授 長坂 桂子	nagasaka@
広域 看護学	看護管理	准 教授 餅田 敬司	mochida@
	国際看護	(教 授 河原 宣子)	kawahara-n@
	地域看護	准 教授 黒瀧 安紀子	kurotaki@

(※@の後に tachibana-u.ac.jp)

IV. 博士後期課程の入学から修了まで

1. 修了要件

<2020 年度以降入学者>

在学年限 3 年（長期履修の場合は 4 年）以上の在学

修得単位 合計 14 単位以上の修得

共通科目から 2 単位以上（必修）、専門科目から 2 単位以上、特別研究を 10 単位（必修）

論文 博士論文の審査および最終試験に合格

<2019 年度以前入学者>

在学年限 3年（長期履修の場合は4年）以上の在学

修得単位 合計14単位以上の修得

共通科目から4単位以上（必修2単位を含む）、専門科目から2単位、特別研究を8単位（必修）

論文 博士論文の審査および最終試験に合格

2. カリキュラム表

<博士後期課程> 2020年度以降入学者カリキュラム

	科目名	単位		形態	配当 回生	開講期	備考
		必修	選択				
共通 科目	看護実践研究方法論	2		講義	1	前期	
専門 科目	実践看護基礎学特論演習		2	演習	1	後期	専攻分野の専門 科目から選択必 修2単位
	実践看護応用学特論演習		2	演習	1	後期	
	次世代育成看護学特論演習		2	演習	1	後期	
	広域看護学特論演習		2	演習	1	後期	
特別 研究	特別研究Ⅰ	2		演習	1	通年	
	特別研究Ⅱ-1	2		演習	2	前期	
	特別研究Ⅱ-2	2		演習	2	後期	
	特別研究Ⅲ-1	2		演習	3	前期	
	特別研究Ⅲ-2	2		演習	3	後期	

※1 特別研究Ⅱ-1を履修するためには、特別研究Ⅰを修得済である必要があります

※2 特別研究Ⅱ-2を履修するためには、特別研究Ⅱ-1を修得済である必要があります

※3 特別研究Ⅲ-1を履修するためには、特別研究Ⅱ-2を修得済である必要があります

※4 特別研究Ⅲ-2を履修するためには、特別研究Ⅲ-1を修得済である必要があります

※5 長期履修の場合は、特別研究Ⅲ-1およびⅢ-2は、4回生次に履修となります

<博士後期課程> 2019年度以前入学者カリキュラム

	科目名	単位		形態	配当 回生	開講期	備考
		必修	選択				
共通 科目	看護実践研究方法論	2		講義	1	前期	共通科目4単 位以上（必修2 単位を含む）
	看護実践イノベーション論		2	講義	1	前期	
	ヘルスケア組織・政策論		2	講義	1	後期	
	看護キャリア教育開発論		2	講義	1	後期	
専門 科目	実践看護基礎学特論演習		2	演習	1	後期	専攻分野の専門 科目から選択必 修2単位
	実践看護応用学特論演習		2	演習	1	後期	
	次世代育成看護学特論演習		2	演習	1	後期	
	看護マネジメント学特論演習		2	演習	1	後期	
特別 研究	特別研究Ⅰ※1	4		演習	1-2	通年	
	特別研究Ⅱ※2※3	4		演習	2-3	通年	

※1 特別研究Ⅰは1回生前期から2回生前期配当科目

※2 特別研究Ⅱは2回生後期から3回生後期配当科目

※3 特別研究Ⅱを履修するためには、特別研究Ⅰを修得済である必要があります

3. 入学から修了までの基本スケジュール

(日時の詳細は次項「4. 学位論文の作成」を参照)

日程	入学年度	D2 回生以降	修了年度
4月	研究指導教員決定	研究計画書提出・公開発表会	予備論文提出・審査
5月	研究指導教員のもと 研究課題を明確化		
6月		研究計画書提出・公開発表会	
7月			博士論文提出・審査
7月下旬頃			博士論文公開発表会
9月18日			修了式(学位授与)
9月			
10月	研究計画書提出・公開発表会	研究計画書提出・公開発表会	予備論文提出・審査
11月			
12月	研究計画書提出・公開発表会	研究計画書提出・公開発表会	
1月			博士論文提出・審査
1月下旬			博士論文公開発表会
3月	研究成果報告書提出	研究成果報告書提出	
3月12日			修了式(学位授与)

1) 審査の種類と進め方(教職員が行う報告手順を含む)

博士論文研究計画書審査	<p>参加者: 学生とその主指導・副指導教員</p> <p>内容: 研究計画書の発表と口頭試問により審査と助言を行う。合格または条件付き合格で博士論文計画書公開発表会へと進む。</p> <p>報告: 主指導教員は審査結果を研究科長・大学院委員にメールで提出する。</p>
博士論文研究計画書公開発表会	<p>参加者: 研究計画書審査に合格/条件付き合格したすべての学生と博士後期課程の担当教員等。大学院生やその他教員も参加できる。</p> <p>内容: 主指導または副指導教員が座長を務め、発表(30分)・質疑応答(30分)を行う。</p> <p>博士後期課程担当教員は、公開発表会前に配布される当該学生の研究計画書を精読し、研究計画書に対する意見(コメント用紙)を研究科会議迄に記載し、看護・医療系事務課に提出する。会議終了後に看護・医療系事務課から主指導教員に渡す。指導教員はコメントを指導に活かす。</p> <p>研究科会議で合格または条件付き合格と判定された場合は、研究倫理審査に進むことができる。</p>

	報告:主指導教員は、研究科会議の前に「D 研究計画書審査報告書」を研究科長、大学院委員、看護・医療系事務課にメールで提出する。研究科会議終了後に押印済の書類を看護・医療系事務課に提出する。
研究倫理審査	研究計画書審査および公開発表会合格後、必要書類を研究倫理委員会に提出し、審査を受ける。詳細は、「本学 HP トップページ> 大学紹介> 取り組み・活動> 研究倫理に関する取り組み> 研究倫理委員会への申請手続きについて」参照。 なお、申請の手続きまでに APRIN e-learning(APRIN)の受講終了を必須とする。
学位請求論文審査委員会の立ち上げ	学位論文審査委員会は、看護学研究科会議の構成員から 3 名以上の審査委員を選出し、当該学位論文の審査を委嘱する。ただし、研究科会議が必要と認めたときは、本学大学院の他の研究科の教員または他大学大学院もしくは研究所等の教員(所員)を審査委員とすることができる。
予備論文審査会	参加者:学生とその主査・副査 内容:博士論文を実際に完成できる内容が備わっているかを審査し、博士論文提出の可否について判定する。 報告:主査は、メール添付にて、予備審査報告書を看護研究科長および看護・医療系事務課に提出する。
博士論文審査	参加者:学生とその主査・副査 内容:博士論文の審査を行い、可否原案を審議し、公開発表会に進む可否を判定する。 報告:主査は、メール添付にて予備審査報告書を研究科長、大学院委員、看護・医療系事務課に提出する。
博士論文公開発表会 (最終試験)	参加者:博士論文を提出したすべての学生と大学院担当教員、その他教員、大学院生 内容:主査が座長を務め、発表(30分)・質疑応答(30分)を行う。 博士後期課程担当教員は、公開発表会前に配布される当該学生の博士論文を精読し、質疑応答時間に口頭試問および最終試験を行う。 報告:発表会終了後、主査は審査員と協議し成績原案を作成し、研究科会議の資料として学位授与記録簿案を看護・医療系事務課に提出する。研究科会議で可否を判定する。研究科会議終了後に押印済の学位授与記録簿を看護・医療系事務課に提出する。

2) 看護学研究科博士後期課程の博士論文審査基準

- 1) 看護学研究として学術的な貢献や社会的な意義を有している。
- 2) 研究方法ならびに成果が、独創性、論理性、体系性、実証性、新規性、倫理性などの観点においてすぐれている。
- 3) 課題設定と問題意識の対応、課題解明と研究方法の対応、先行研究の整理・評価と結論の整合性などの論理的な一貫性が保たれている。
- 4) 章や節の組み立て、脚注や引用方法、著作権の配慮など、学術論文としての体裁が保たれている。
- 5) 副論文として、過去 5 年以内における本論文と関連する学術雑誌における査読付研究論文の掲載などの研究業績がある。

4. 博士（看護学）学位論文の作成

(1) 研究指導教員の決定

大学院入試の際に提出している研究計画書に基づいて、学生各自の基本研究分野を確認するとともに、研究指導教員を入学時に決定します。副指導教員については研究内容に合わせて後日決定します。

(2) 研究成果の報告

最終年度を除く各年度終了時にはその年度の進捗状況等ならびに次年度の具体的な計画を記した「研究成果報告書」を作成し、主指導教員へ提出します。

- ◆ 「研究成果報告書」提出期限
2027年 3月 3日（水）

- ◆ 「研究成果報告書」の提出方法について

提出方法:看護学研究科長までメール添付にて提出

添付ファイル:PDF化した「研究成果報告書」（様式は自由）

- ・ 主指導、副指導が確認したものを提出してください。
- ・ CCに主指導、副指導を入れ提出してください。
- ・ メールのはじめの件名は「学籍番号 氏名 研究成果報告書」としてください。
- ・ 提出日時は、メールの受信時間で判断しますので、余裕をもって提出してください。
- ・ 提出は1回限りです。

(3) 研究計画書の提出

<2020年度以降入学者>

「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ-1」「特別研究Ⅱ-2」の履修期間中に研究指導を受け、研究計画書を作成し、審査を受けることができます。

<2019年度以前入学者>

「特別研究Ⅰ」は、研究計画書審査と研究計画書公開発表会の中間審査から成ります。D2回生の6月中旬～下旬あるいは12月に研究計画書を提出し、研究計画書審査会の審査を受けます。

- ◆ 体裁

- ① A4サイズ 縦用紙に横書き
- ② 表紙に題名（タイトル、副題）、所属、学籍番号、学生氏名を記載
- ③ 文字サイズは11ポイントとし、1枚につき40字×30行＝1,200字を目安
- ④ 下部中央にページ数を挿入する
- ⑤ 表紙、目次、本文、図表、資料の順に綴じる。図、表は本文に挿入しても良い

- ◆ 提出期限

前期 ①2026年 4月 1日（水） 16:00まで

- ②2026年 6月3日(水) 16:00まで
後期 ①2026年 10月7日(水) 16:00まで
②2026年 12月2日(水) 16:00まで

◆ 提出方法

提出方法:看護・医療系事務課までメール添付にて提出

送付先:aca-nm@tachibana-u.ac.jp

添付ファイル:PDF化した「博士論文研究計画書」

- ・ 主指導、副指導が確認したものを提出してください。
- ・ CCに主指導、副指導を入れ提出してください。
- ・ メール の件名は「学籍番号 氏名 博士論文研究計画書」としてください。
- ・ 提出日時は、メールの受信時間で判断しますので、余裕をもってご提出してください。
- ・ 提出は1回限りです。

(4) 博士論文研究計画書の審査と公開発表

研究計画書の提出後2週間前後を目安に、研究計画書審査会(以下、「計画書審査会」)が開催されます。

(5) 博士論文研究計画書の公開発表

◆ 日程

- 前期 ①2026年 4月15日(水) 17:10～(4月1日(水)までの提出者)
②2026年 6月17日(水) 17:10～(6月3日(水)までの提出者)
後期 ①2026年 10月21日(水) 17:10～(10月7日(水)までの提出者)
②2026年 12月16日(水) 17:10～(12月2日(水)までの提出者)

(6) 研究倫理審査

研究計画書審査および公開発表会合格後、必要書類を研究倫理委員会に提出し、審査を受けます。詳細は、「本学HPトップページ> 大学紹介> 取り組み・活動> 研究倫理に関する取り組み> 研究倫理委員会への申請手続きについて」でご確認ください。

http://www.tachibana-u.ac.jp/about/efforts/ethic/application_procedure.html

なお、申請の手続きまでに研究倫理教育を受講しなければなりません。本学では研究倫理教育として「APRINe-learning(APRIN)」の受講修了を必須としています。

(7) 予備論文と副論文の提出

博士論文提出に先立って、修了年度の10月(前期修了の場合は4月)に、看護・医療系事務課へ予備論文を提出します。

予備論文には、博士論文を実際に完成できるかどうかを判定できる内容が備わっている必要があります。また、学会誌等に掲載された論文を「副論文」として提出する必要があります。副論文とは、過去5年以内における本論文と関連する学術雑誌における査読付研究論文*1の掲載*2などの研究業績*3です。

(*1 全国規模の査読付の学会誌、あるいは大学・研究所発行の紀要の研究論文のこと *2 掲載されたもの、あるいは掲載が受理されたもの *3 筆頭著者であること)

◆ 予備論文、副論文の提出期限

2026 年度前期 2026 年 4 月 3 日 (金)

後期 2026 年 9 月 24 日 (木)

2027 年度前期 2027 年 4 月 7 日 (水)

◆ 予備論文、副論文の提出方法

提出方法:看護・医療系事務課までメール添付にて提出

送付先:aca-nm@tachibana-u.ac.jp

添付ファイル:PDF 化した予備論文と副論文

- ・ 主指導、副指導が確認したものを提出してください。
- ・ CC に主指導、副指導を入れ提出してください。
- ・ メール の 件名 は「学籍番号 氏名 予備論文」としてください。
- ・ 提出日時は、メールの受信時間で判断しますので、余裕をもって提出してください。
- ・ 書式は定めていません。様式、枚数等については研究指導担当教員の指示にしたがってください。
- ・ 提出は 1 回限りです。

(8) 予備論文審査会

審査の種類と進め方を参照

(9) 博士論文の作成

◆ 論文の体裁

- ① A4 サイズ 縦用紙に横書き
- ② 表紙に題目 (タイトル、副題)、所属、学籍番号、学生氏名を記載
- ③ 文字サイズは 11 ポイントとし、1 枚につき 40 字×30 行=1,200 字を目安とする
- ④ 本文はワープロ原稿で、下部中央にページ数を挿入する
 - ・ 註は本文として上記枚数に含める
 - ・ 本文以外の資料、図表、写真等は上記枚数に含めない
- ⑤ 表紙、要約、目次、本文、図表、資料の順に綴じる。図、表は本文に挿入しても良い
- ⑥ 要約は、文字サイズ 11 ポイントとし、体裁は見本 1 を参照すること
- ⑦ 題目と要約は、和文と英文で記載すること

(10) 博士論文と学位授与申請 (課程博士) の提出

ポータルサイトから案内される様式および提出方法を遵守して提出します。

◆ 提出期間

前期 2026 年 7 月 14 日 (火) ~2026 年 7 月 15 日 (水) 16:00 まで

後期 2027 年 1 月 12 日 (火) ~2027 年 1 月 13 日 (水) 16:00 まで

◆提出内容

- ① 「博士論文」
- ② 「要約」【所定様式】（様式 D-1）
- ③ 「学位授与申請書（課程博士）」【所定用紙】
- ④ 「博士論文のインターネット公表確認書」【所定用紙】
- ⑤ 「論文目録」【所定用紙】
- ⑥ 「副論文」1 編以上

※ファイル形式は全て PDF（10MB 以下）としてください。

博士（看護学）の学位を申請できる要件は、IV.1 修了要件に記載されています。

博士論文の提出までに、「予備論文」を提出し、博士論文の提出が可能であると審査されていることが条件です。博士論文の提出時に「学位授与申請書（課程博士）」【所定用紙】を提出します。

（11）博士論文の審査

審査の種類と進め方を参照

（12）公開発表会（最終試験）

◆予定日

【前期】論文提出後に調整予定

【後期】2027 年 1 月 26 日（火）

（13）博士論文の製本

最終試験に合格した「博士論文」は、下記の要領で製本し、学位授与式前日までに看護・医療系事務課に 1 部提出してください。図書館保管資料とします。研究指導教員等へは、各自で必要部数を作成し、直接お渡しください。

- ① 用紙は A4 サイズとし、表紙はソフトカバー、本文は白地とする。
- ② 表紙の次に論文タイトル、氏名を記載した「中綴じ」をいれる。
- ③ 表紙、中綴じ、博士論文要約、目次、本文、図表、資料の順に綴じる。図や表は本文に挿入しても良い。
- ④ 本文は、上部余白 3.0cm、下部余白 3.0cm、左側余白 2.5cm、右側余白 2.5cm をあける。文字は、11 ポイントで 1 ページの文字数 40 字×30 行の 1,200 字を目安とする。本文には、下部中央にページ数を入れる。印刷は、両面印刷とする。

※「中綴じ」「修士論文要約」「目次」にページ数は入れない。

- ⑤ 表紙（表・裏）、背表紙は、様式 D-2 に示すフォーマットを参考にする。

※「背表紙」には縦書きで「20〇〇年度 博士論文 論文タイトル 氏名」を記載すること。

※「裏表紙」に大学名と大学マークを使用するかどうかは、各自の希望による。大学ロゴマークを使用する場合は、看護・医療系事務課に申し出ること。

様式 D-1

博士論文要約		学籍番号 氏名
論文題目		
文字数1,200字を目安とする 論文題目と要約は、和文と英文で記載すること		

※「博士論文」と提出する要約には、必ず学籍番号と氏名を記載すること。

※「博士論文」を製本する際の要約には、学籍番号と氏名を記載する必要はない。

様式D-1に、次の内容を入れてください。

文字数 1,200 字、3 枚以内を目安とする。

論文題目と要約は、和文と英文で記載すること。

記載内容は、序論、研究方法、結果、考察等の内容毎に記載すること。

様式 D-2

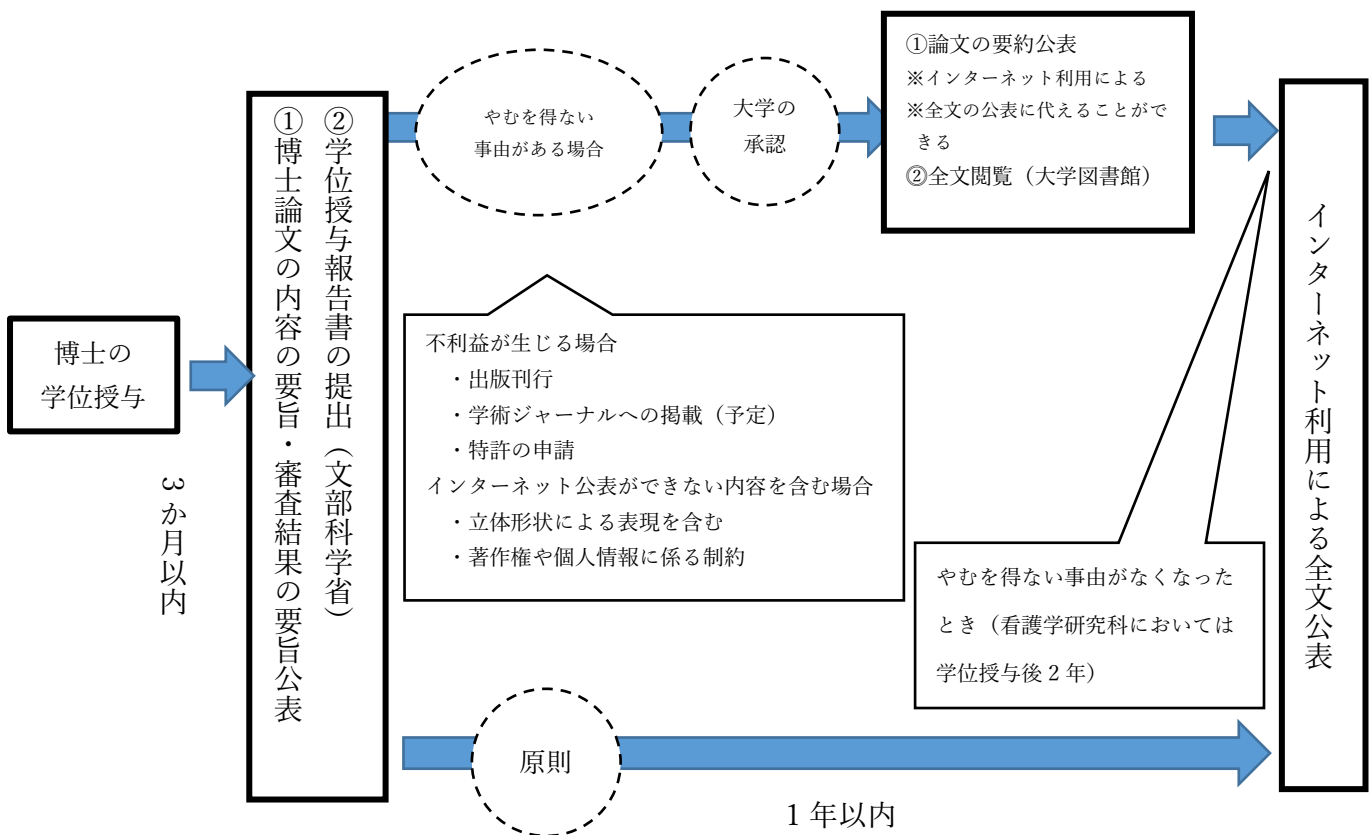
裏表紙	背表紙	表紙
大学ロゴ 京都橘大学 KyotoTachibanaUniversity	2 0 0 0 年 度 博 士 論 文 論 文 タ イ ト ル 氏 名	20〇〇年度京都橘大学大学院看護学研究科 博士論文 論文タイトル： 1 - 2 行 氏 名

5. 博士論文の公表

博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から3か月以内に当該論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表しなければなりません。（学位規程第16条）また、博士論文は、授与された日から1年以内に、当該博士論文の全文をインターネットの利用により公表しなければなりません。（学位大学規程第17条）

博士論文をインターネット利用により公表することについて、[全文の公表が可能]、[全文の公表の保留を希望]のいずれかを選択することができます。但し、出版刊行や学術ジャーナルへの掲載により公表に制約がかかる場合にあっては、公表が制約される時期が経過後（学位授与後2年）に博士論文の全文を公表することになります。これらの手続は看護・医療系事務課で行うので、修了式までに博士論文の電子データを看護・医療系事務課に提供してください。

<本学における博士論文の公表に係るフロー>



V. 研究指導とサポート体制（前期・後期課程共通）

1. 研究指導とサポート体制

複数教員による研究指導体制

看護学における新たな教育・研究領域を設定し、広範な視野と多様な視点からの研究指導が行えるように、研究指導においては、学生一人ひとりに対し、専門性・学術性を深めるための主指導教員1名と、それを補佐し学術的視

野を広めるための副指導教員からなる複数教員による指導体制を採用しています。主指導教員は研究の中心的指導、副指導教員は学際的な視点から支援を行います。

研究支援制度

本学大学院修士課程・博士前期課程および博士後期課程に在籍する学生を対象として、研究活動を奨励・援助するため「京都橘大学大学院学生研究奨励金制度」や「京都橘大学大学院学生研究成果公開奨励制度」が設けられていますので、積極的に活用することを期待します。詳細は大学 HP およびポータルサイトから案内される募集要項を確認し、不明点は看護・医療系事務課に相談してください。

本学大学院で利用可能な制度（2026年3月現在）

https://www.tachibana-u.ac.jp/campuslife/expense/g_scholarship.html

1) 研究奨励制度

- (1) 京都橘大学大学院学生研究奨励金制度
- (2) 海外留学奨学金制度
- (3) 研究成果公開奨励制度
 - ① 京都橘大学大学院学生会登録補助制度
 - ② 京都橘大学大学院学生会参加等補助制度
 - ③ 京都橘大学大学院研究会活動補助制度
 - ④ 京都橘大学大学院学生学術投稿等補助制度

2) 入学金の減免措置

3) 奨学金等制度

- (1) 本学独自の奨学金制度
 - ① 京都橘大学経済援助給付奨学金
 - ② 京都橘大学緊急就学援助奨学金
 - ③ 京都橘大学緊急貸与奨学金
 - ④ 短期貸付金制度
 - ⑤ 京都橘大学大学院私費外国人留学生授業料減免制度
 - ⑥ 京都橘大学留学生経済援助給付奨学金
 - (2) 日本学生支援機構奨学金制度
- 4) 大学院修士段階における「授業料後払い制度」
 - 5) 特に優れた業績による返還免除制度（大学院第一種奨学金）

2. 社会人大学院生のための制度

社会人学生のための履修形態の弾力化

勤務の都合上昼間だけでは学修が困難と予測される人のために、平日 5、6 講時や土曜日にも授業を行い、また一定期間の集中的な開講や教育・研究指導などを実施して受講・履修の便宜をはかります。また、標準修業年限は 3 年ですが、長期履修制度を利用し 4 年で修了することもできます。